

< 平成12年度の記録 >

平成12年5月24(水)～25日(木) みどりグループ現地研修会の実施。(平成11年度事業)
全国に先駆けて、「園芸療法を活用した福祉のまちづくり」を実践している事例研究
として岩手県東和町の研修を実施した。

・岩手県東和町視察

(株)とうわアグリトピア公社、日高見の霊湯 東和温泉と園芸療法ガーデン視察、24
日の夜は、懇親会が催され、さまざまな町の取り組みについて議論が交わされました。

・遠野市視察

とおの昔話村・遠野市立博物館見学、宮沢賢治記念館見学

(参加者11名)

平成12年6月3日(土) 新全総グループ現地研修会開催。(平成11年度事業)

茨城らしい地域づくりを議論するうえで、新たな居住空間を整備し、提供している地域や
環境共生型の都市づくりを提案している下記の地域を現地視察。

・笠間市クラインガルテン

グリーンツーリズムの実践として、地域資源を有効に活用する茨城型のみどりを活用し
た居住環境の事例。

・コリーナ矢板(栃木県矢板市)

開発コンセプトを斜面住宅地(林間住宅地)におき、豊かな自然と温泉付きの低価格分
譲を行っている。

・フィオーレ喜連川(栃木県喜連川町)

クラスター型の住宅配置と地形を上手に路用して自然との調和を図っている住宅地。

・那須野ヶ原(首都機能移転候補地)

雄大な自然と環境共生型の新しい首都構想イメージを展望台から観察。

(参加者 : 24名)

平成12年7月7日(金)

平成12年度 理事会(204会議室)および総会(大会議室)が茨城県市町村会館で開
催されました。

理事会には、12名の理事が出席され、総会に諮る議案当の審議をいただきました。

午後1時より総会を開催、非会員42名を含む125名の参加により、平成12年度の役
員、平成11年度の事業報告および決算報告、平成12年度の事業計画および予算計
画、会則の一部修正などが了承され、会長、副会長については、引き続き続投をお願
いすることになりました。

会長 山形耕一 様(茨城大学工学部教授)

副会長 宍戸薫 様(土木部総括技監)、方波見 正 様(ホコタ設計コンサルタンツ(株))

総会后、特別講演として「地域情報化事業とGIS利用について」と題して、元岡崎市企画
部企画課 情報推進室長、現(株)クロス・カルチャー代表取締役の加藤晴彦氏の講演
をいただきました。

さらに、各分科会班の活動報告があり、新全総グループより(株)ミカミの三上靖彦様、
みどり分科会班より(株)都市緑サービスの櫻村英紀様、橋梁班より(株)ピー・エスの
石沢孝様、GIS班より茨城大学の桑原先生から、それぞれ報告がありました。

平成12年7月28日(金) 橋梁分科会班ワークショップの開催

(於 : 茨城県開発公社 中4会議室、参加者 : 38名、司会 : ピー・エスの石沢様)

まず最初に、橋梁分科会班リーダーの茨城大学工学部の横山先生から御挨拶があり、分

科会として目指すいくつかの点についてお話があり、続いて浮体橋の概略と海外での例のお話がありました。

続いて、(株)東京建設コンサルタントの大平様より、浮体橋の概要、欧米における実施例、国内における計画などについて報告がありました。

霞ヶ浦大橋の位置に浮体橋を架橋すると仮定して、架橋地点の地質条件、気象条件について基礎地盤コンサルタント(株)の伊東様より報告があり、霞ヶ浦大橋の現況として、上下部工、基礎工造、工費などについて(株)長大の牧野様より発表がありました。

続いて、具体的な浮体橋の構造原理、構造形式、構造寸法と今後の問題点として設計面、経済面、環境面についての報告が八千代エンジニアリングの渡辺様よりありました。

最後に、質疑応答があり、それぞれの質問に対し、討議が行われ、特にマリフフロート推進機構の永富様からも貴重なアドバイスがありました。

また、今後の活動計画について、いばらきの橋ウォッチング、供用PC桁の耐荷力試験の2点について(株)長大の牧野様から説明がありました。

平成12年12月15日(金)「[現地研修会](#)」を開催しました。

(見学場所) 午前:建設省土木研究所
午後:東京鐵骨橋梁 取手工場
アサヒビール 守谷工場

(参加者) 合計48名(バス2台)
(PCグループ6名、造園グループ4名、地質調査グループ5名、鋼橋グループ2名、建設グループ2名、茨城コンサルグループ3名、建設コンサルタントグループ2名、自治体グループ24名)

(結果)

- ・土木研究所については、
海洋沿岸実験施設として、平成11年に発生した台風18号による熊本県不知火町(しらぬいちょう)、松会(まつあい)地区の高潮被害の再現大型模型実験を視察。
河川水理実験施設として、島根県の一級河川斐伊川(ひいがわ)のバイパス放水路の大型実験施設を視察。
ダム水理実験施設として、国内の各ダムの模型施設や水衝部実験、堆砂実験施設を見学。
大型風洞実験施設で、大型の長大吊り橋の耐風試験を見学。
- ・東京鐵骨橋梁 取手工場では、版(I)桁、箱桁の橋梁部材の制作工程(プラズマ切断 穴繰り 組立 溶接 ひずみ矯正)を見学。
コンピューターによる仮組シミュレーション3次元モデルについての測定を視察。
久慈川架橋の一般県道日立東海線の橋梁仮組ヤードを見学。
- ・アサヒビール守谷工場では、各生産工程と、廃棄物ゼロの環境重視型取り組みについて視察。

平成13年1月13日(土) 新全総グループが「正月の笠間を歩く」を開催しました。

(詳細は、[別添報告書](#)参照)

笠間市は、豊かな自然とヒューマンスケールの街の広がりの中で、歴史的な町並みと人情味の残る旧市街地・新たな区画整理事業による新市街地、農村集落環境を生かしたクラインガルテンなど、街の新たな創出と保全がバランスを持って展開されています。

(参加者14名)

- (散策コース)
1. 笠間クラインガルテン(関東初の滞在型市民農園)
 2. 笠間芸術の森公園(茨城県陶芸美術館オープン)
 3. 笠間市来栖市嘗住宅(地域特性を生かした街づくり)
 4. 笠間稻荷周辺地区(歴史的な門前町)
 5. 石井北部・寺崎地区(区画整理事業+地域振興+ふるさとの川モデ

ル事業)

若干雪の残る、曇り空で大変寒い日でしたが、参加していただいた会員の皆様には熱心に見学をしていただき、今後さらにこの結果を参考に多自然居住地域のモデルとなる「いばらきらしい地域像」とは？という検討を進めていきたいと考えております。

平成13年2月22日(木) 橋梁グループが「浮体橋」のミニワークショップを開催しました。

茨城県開発公社会議室で、約31名の参加者をもって開催されました。

平成12年7月28日の第1回ワークショップに引き続き、浮体橋のその後の検討結果を関係者からそれぞれ発表を行いました。(別添報告書参照)

なお、これらの経過については、小冊子による報告書を作成して会員に配布する予定となっております。

平成13年5月30日(水)

橋梁分科会班、既存PC桁(新大和根有料道路橋、第2田中高架橋:昭和54年架橋) 載荷試験実施。

場所:ピー・エス(株)茨城工場(玉造町)

参加者:123名

試験項目:ひび割れ発生載荷試験、曲げ破壊試験、コンクリート中性化試験

結果:

曲げひび割れ発生荷重

曲げ破壊試験

	載荷荷重	変位置	ひずみ量	曲げ破壊荷重
設計値	122.7KN	17.12mm	287×10^{-6}	346.7KN
実測値	150.0KN	23.85mm	408×10^{-6}	330.0KN

いずれもほぼ設計値をクリアーしていると見て良い。

なお、参加いただいた皆様方には、試験結果の概要版を配布したいと考えております。

平成13年6月5日(火)

「新全総」、「橋梁」分科会ワークショップの開催。

場所:(財)茨城県建設技術研修センター(青柳)

参加者:41名

・橋梁班:「霞ヶ浦に架ける浮体橋」の検討

「5/30実施の既存PC桁破壊試験の試験結果報告について」

・新全総班:平成11年度の視察結果報告、平成12年度の「正月の笠間を歩く」報告。

笠間市内から見た笠間市の取り組みについて、都市計画課の大久保課長の笠間市のまちづくりの考え方と農林部の笠間ラインガルテンの取り組みと現況について発表。茨城らしさを反映する多自然型居住地域の構想を笠間市に求めて、様々な議論を行った。

平成13年6月8日(金)

「みどり」分科会、先進地視察の実施。(別添報告書参照)

参加者:17名

・武蔵野市「市民公園」

計画づくりから管理運営まで、住民参加型の公園づくりを行った。

・世田谷区「羽根木プレーパーク」

公園緑地課が管理する公園内で、プレーリーダーの協力の下に子供の自主性に任せて、事故は自分の責任として遊ぶことを目指している。

ふた昔前のどこでも見られた遊び方の復活。

・中央区「聖路加ガーデン」

聖路加病院の6階の屋上公園は、患者などの心の癒しの場として散歩や休息の場として提供されている。(茨城県立医療大学の屋上にも規模の小さい庭園が整備されている。)屋上緑化は、都市部でのヒートアイランド対策にも役立っている。

また隅田川との間の公園は、都市のオアシスとして整備されている。

平成13年6月22日(金)～26日(火)

三峽ダム視察ツアー、参加者26名(大学教官3名、県関係13名、民間10名)にて実施。
上海の茨城県事務所を皮切りに、三峽クルーズや三国志の史跡巡りを行いました。
三峽ダムの工事現場の巨大さに圧倒されたとのことです。(別添報告書参照)